



CONTENTS

2017年度 聖句

「あなたがたの光を人々の前で
輝かしなさい。」

(マタイによる福音書第5章16節)



学位記授与式・修了証書授与式	2
入学式	4
伊藤忠彦特任教授退任記念最終講義	6
卒業生の活躍	7



第51回学位記授与式・修了証書授与式

卒業生、修了生に贈る言葉

学長 佐藤 守男



別の言い方をすれば、学業などの「認知能力」よりも、むしろ人間関係の中で身に着ける「非認知能力」の高い人、そして和泉の使命を我々と共に担ってくださる人を求めています。そして、保育士、幼稚園教諭は単なる子守ではありません。本学は大学であり、高度なカリキュラムを十分にマスターする学力、能力を備えていなくてはなりません。もちろん、専攻科の学生たちも同様であります。

こういふ方針で選ばれた、粒よりの卒業生・修了生の皆さんが選んだ進路先も、これまでの皆さんの努力と研鑽とにふさわしい場所であるに違いありません。皆さんはこれからの人生の中で、結婚、子育て、介護等で人生設計を変えざるを得ない機会にたびたび直面することでしょう。しかし、どんな時でも目標を見失わず、自分を磨き続け、身近な人、地域や社会のために尽くす人、そこに喜びを憶える人であって欲しいと思います。最後に和泉短期大学を卒業、修了する皆さんとご家族の上に、神さまの豊かな祝福がありますよう、お祈りしております。

第51期生の皆様

副学長 教務部長 松浦 浩樹



本学をご卒業「愛と奉仕」の心をもってかかわられて、2か月が過ぎようとしていますが、新しい心をもって、この石を削っていく人に育ってほしいと思います。それができるところでは、「しがみつく」時が必要に思いませんか。辛いこともあります。そのようにな時には自分を責めず、本学に帰ってきてください。話しましょう。考え合いましょう。本学は皆様の「ホーム」です。今年で3回目を迎えますが、本学の子ども・保育を語るサークル主催で「保育を語る会」を8月5、6日に合宿形式で行います。8月6日の午前中には、リカレント講座も開催します。仕事に乗っている方も、覗いている方も、「ホーム」に戻ってきませんか？

一日の様子

2017年3月14日(火)、和泉短期大学第51回卒業証書・学位記授与式、並びに専攻科介護福祉専攻第7回修了証書授与式が和泉クラーク・ホールにおいて挙行されました。パイプオルガンの荘厳な音色とともに幕を開け、讃美歌斉唱、聖書朗読、祈祷、ハンドベル・クワイアによる讃美と続きました。グループアドバイザーから卒業生一人ひとり名前が呼ばれ、佐藤学長より「卒業証書・学位記」卒業生総代に手渡されました。卒業生代表による答辞と進むうちに、卒業生一同感無量になりました。最後に讃美歌を斉唱して卒業証書・学位記授与式が終了しました。



児童福祉学科の皆さん、専攻科介護福祉専攻の皆さん、卒業・修了おめでとうございます。和泉短期大学は昨年、創立60周年を迎え、式典、祝賀会、講演会、記念コンサートを開催し、本学の関係者や地域の方々と共に祝賀を致しました。改めて、我々教職員は、和泉が多くの方々から愛されているということを知り、襟を正す思いで新年度を迎えています。ところで、和泉短期大学は、高校訪問の際または進学相談会において「本学が求める学生像」を次のように説明してきました。「必ずしも学業の成績優秀な学生を求めているわけはありません。高い給料、楽な仕事を欲する人も求めていません。他人のため、幼児のため、自分を捧げることを喜びとする意欲の人、使命の人、愛情の人を求めています」

2016年度表彰者紹介

眞鍋記念奨学金(後期)

1年 齋藤 愛
(都立町田高等学校出身)
この度は眞鍋記念奨学生として表彰して頂きまして、深く感謝申し上げます。後期には保育所と施設の実習に行き、自分に足りないものなど様々なことに気づくことができました。今後も積極的に学び続けていきたいです。

1年 田辺 凜果
(県立相模原青陵高等学校出身)
この度は、名誉ある賞を頂きありがとうございます。このような賞を頂くことができても嬉しく思います。1年次で学んだことを、2年次では実践として生かしていくことができるように頑張りたいと思います。今年度は学年首位を目指して頑張ります！

2年 立石 夏海
(都立町田総合高等学校出身)
この度は素晴らしい賞を頂き、ありがとうございます。和泉で仲間と共に学び、過ごした2年間は私にとってかけがえないものとなりました。学生としての学びは無事と終えることが出来たので、今後は保育者として学び続け、日々精進して参りたいと思います。

2年 添川 優海代
(都立府中高等学校出身)
和泉での二年間は友人や先生方、家族に支えられかけがえない時間となりました。私がこの道を進むにあたり、その全ての基礎は和泉で学びました。これからの保育者生活では和泉で学んだ基礎の上にさらに学び続ける心を忘れず、より成長できるように努力していきたいと思っております。

専攻科 石井 晴菜
(県立大和西高等学校出身)
この度は名誉ある賞を頂きまして、誠にありがとうございます。和泉では児童から高齢者まで幅広い分野の学びが出来たことを嬉しく思います。友人や教職員の方、そして家族の支えのおかげで充実した学生生活を送ることが出来ました。和泉での学びを糧にこれからも日々精進し、学び続けることを忘れずに成長していきたいと思っております。

2年 長田 恵
(県立城山高等学校出身)
この度は中島武夫記念賞を頂きましてありがとうございます。正直、和泉での学生生活は忙しい!と思うことが多かったです。しかし、同じ道を目指す仲間たちと共に学べたことで保育の楽しさ、やりがいを知る事ができました。春からは幼稚園教諭として、愛を持って子どもたちにかかわりたいです。

中島武夫記念賞

2年 平牛 加菜子
(県立横浜桜陽高等学校出身)
私たちは実際にカンボジアの子ども達に会い、完成した学校を見て来ました。自分たちのやって来たことが結果として

讃岐和家記念賞

2年 古藤 夏子
(県立相模原青陵高等学校出身)
この度は讃岐和家記念賞を頂きありがとうございます。2年間の和泉での学びはもうそろそろ2つのボランティア先での学びは私自身を大きく成長させるものでした。春から公立保育士として働く際にも今までの学びを現場で生かして日々成長し続けていきたいと思っております。

伊藤忠利記念賞

専攻科 桑原 直子
(県立野津田高等学校出身)
伊藤忠利記念賞をいただき、ありがとうございます。このような名誉な賞をいただけたこと、専攻科生として、キリスト者としてとても嬉しく思います。一年間専攻科で学んできたことを存分に活かして、介護福祉士としてこの賞に恥じないよう、努めていきたいと思っております。

学長賞(後期)

1年 山口 涼香
(県立上溝高等学校出身)
この度はこの様な素晴らしい賞を頂き、大変嬉しく思います。こうして賞をいただいたのは、鈴木先生をはじめとする先生方やサポートしてくださった方々のおかげだと感じています。今後も日々の学びを大切に、夢に向かって努力していきたいと思っております。

—2017年度新入生研修会—

4月7日（金）和泉短期大学の新生が、宗教部主催の新入生研修会に参加しました。

キリスト教信仰に基づく建学の理念を持つ和泉短期大学での学生生活の始まりに、今後の学びの礎を培うためのプログラムとして行われました。

第一部は牧師でチェロ奏者の井上とも子先生による、「おどろくばかりの」と題したキリスト教音楽講演会でした。天国のヴァイオリンとも呼ばれるチェロの平和で豊かな音色、それが様々な表現によって奏でられました。ソロおよびピアノの加賀都喜乃さんとの演奏は心に響くものでした。そしてジョン・ニュートンという驚くべき人生を辿った牧師の話を紹介され、聖書のヨハネによる福音書3章16節を通して「神の愛は全ての人に注がれている」ことが語られました。保育・福祉を目指す学生達に向けた温かい励ましは一人ひとりの心に届いたことでしょう。

第二部の宗教部オリエンテーションは、宗教部長西田恵一郎チャプレンにより行われました。チャペルアワーなど学生生活を支える礼拝についての解説では、パイプオルガンの豊かな響きとともに讃美歌を歌い、祈りを合わせる体験もしました。さらに和泉短期大学における各種の宗教活動についての紹介と参加の促しが行われました。



第53回入学式

—2017年度新入生歓迎大会—

4月5日（水）、「新入生歓迎大会」を開催しました。午前中は、2年生の新入生歓迎大会委員が企画した「綱引き」「猛獣狩り」「じゃんけん列車」を行いました。「綱引き」はグループ対抗のトーナメント戦で、白熱した戦いとなり、大変盛り上がりました。「綱引き」を通じてグループが一丸となり団結力が高まりました。

午後は、グループごとに新入生と2年生が共同で1つの作品を創り上げていく「壁面構成」のプログラムを行いました。「壁面構成」は、1月～12月まで月ごとに貼り絵で作成しました。この新入生歓迎大会を通して先輩と後輩、友達の絆を深めることができました。



一年生の時に障害者支援施設で実習をさせていただきました。そこでは高齢の利用者が多く、実習に取り組むなかで介護について勉強したいという気持ちが生まりました。



私が専攻科介護福祉専攻に入学を決めたきっかけは、児童福祉学科で経験した施設実習でした。

私は元々保育とともに障がいについて勉強をしたいと意気込んで入学しました。実習を経て、介護を学ぶことで、将来への選択肢が増えると感じました。これから和泉短期大学で一年間、介護について勉強していくにあたって、今まで学んできた保育とはまた違った視点や発見があると思います。子どもから高齢者まで気持ちに寄り添えるような魅力ある人間に成長できるように、仲間とともに勉学に励んでいきたいです。

専攻科介護福祉専攻 鈴木麻友子
(県立湘南台高等学校出身)

なことで、習い事で小さな子と関わる機会が多かった為です。どこで保育を学ぼうか考えていた時、高校に和泉の先生が説明に来て下さいました。そのお話を聞くうちに和泉短期大学で学びたいと思うようになりました。オープンキャンパスに足を運んだ際、目を引いたのはクラ



私が幼稚園教諭になりたいと思ったきっかけは、子どもが好き

入学をした現在は、二年後に保育者になれるのか不安なことも沢山ありますが日々の学びを大切に、努力したいと思っています。子どもの気持ちを大切に、寄り添える保育者になりたいです。

1年 角田 雪乃
(県立相模原総合高等学校出身)

新入生の言葉

—当日の様子—

2017年4月1日（土）、和泉クラーク・ホールにおいて2017年度の入学式を挙行了しました。

2017年度は、児童福祉学科に222名の新生、専攻科 介護福祉専攻に23名の保育士資格取得者の入学者を迎え、多くの保護者のご参列をいただきました。

新生はグループごとの記念写真撮影後、アドバイザーを囲んでミーティングを行い、これから始まる学生生活の夢を語り合いました。新生が良き保育者、介護福祉士に成長することを願っています。



和泉は私にとって人生のターニングポイントであり、児童福祉の世界を極める上で原点となっています。

和泉1年時の児童養護施設実習を機に、もっと児童福祉について知識を深めたいと、和泉卒業後は日本社会事業大学へ編入学しました。

昼間は学校、夜は児童相談所の夜間指導員を勤め知識と経験を積んだ後、児童養護施設へ就職。そこで「何があっても子は親を求めると『希望や夢があれば辛いことも乗り越えられる』ということを知り、子どもから学びました。

虐待問題を解決するために、は親子支援が必要と考えた私は児童相談所や保育園で地域の親子支援に従事。しかしそこで見たのは日々の生活に追

われて笑顔を失い子育てを兼ねていないお母さんと、母子の十分な関わりを持って、気持ち満ちた状態でいる子どもたちでした。『もっと親子一人ひとりに寄り添った支援はないものか』そう想って自ら新設したのが現在施設長を勤める『子育て支援の家OHANA』です。ハワイ語で家族を意味するOHANA。利用者に家族のように寄り添い支える立場として0、3歳の親子の遊び場オハナパークと0、12歳までの子どもを家で過ごすように保育する家庭的保育を実践しています。人としての基礎を築く最も大切な時期である0、3歳。家庭で過ごす親子も、保育園で過ごす親子も、同じように発達に合った保育士活動に参加し、子どもの成長を実感する中で、辛いことも嬉しいことも共感できる子育て仲間が繋がりができています。一人じゃないと思えることで乗り切れること、仲間がいることで楽しさが倍増すること、和泉の学生生活で学んだ、仲間の大切さ、が子育て支援にも活かされています。

卒業生の活躍(第16回)

OHANA 施設長(2005年卒業)

村田 加奈恵さん

相模原市地域活動・市民活動ボランティア認定証贈呈式

本学と相模原市との包括連携協定に基づいて、2016年度「相模原市地域活動・市民活動ボランティア認定制度」が実施されました。この制度は、今年度一定以上の地域活動・市民活動を行った学生に対して、相模原市から認定証が授与されるもので、本学から13名の学生(1年生10名・2年生3名)が認定されました。



ボランティア学士 受賞

- | | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| 1年 白石 千瑛 | 1年 細谷 朱里 | 1年 磯崎 史果 | 1年 大宮 美鈴 |
| 1年 木内 実優 | 1年 島田 成美 | 1年 富樫 紅実 | 1年 澤邊 結菜 |
| 1年 杉崎 陽菜 | 2年 嶋 みゆき | 2年 鈴木麻友子 | 2年 古藤 夏子 |

ボランティア修士 受賞 1年 荒井 美穂

この度はボランティア修士といった賞を頂き、とてもうれしく思っております。園外保育や土曜保育でのボランティアは充実していて、とても楽しい時間でした。

特に園外保育では、自然の中で遊ぶ子ども達の姿を見て、自然での保育の大切さを実感しました。

ボランティアを受け入れてくださった園の皆さまには感謝の気持ちでいっぱいです。今後はボランティアでの学び、経験を忘れずに、より勉学に励んでいきたいです。



相模原市長 加山 俊夫

izumiNEWS31号で紹介しました、平成28年度 厚生労働省「児童虐待防止推進月間」標語 最優秀作品選定(厚生労働大臣賞受賞)にあたって、受賞者の2年山口涼香さん(受賞時1年)へ、相模原市長よりお言葉を頂きました。

平成二十八年度 児童虐待防止推進月間標語 最優秀賞(厚生労働大臣賞)受賞誠におめでとうございます。

本市の将来を担う若い世代の方が、児童福祉について熱心に学ばれこのような賞を受賞されましたことを大変喜ばしく思います。

山口涼香様の今後ますますの御活躍を御期待申し上げます。

相模原市長より「児童虐待防止推進月間標語 最優秀賞受賞」についてお言葉を頂きました。

2016年度ベストオブスタッフ賞(事務局長賞)

基礎学力支援者 青木 誠

今年度も公立保育士に合格者を出すことができ大変うれしいです。これは、個別指導に粘り強くついてきてくれた学生の「根気と努力」の賜物です。私も「分りやすく、粘り強い」指導を心掛けてきました。今後とも皆さんの挑戦意欲と持てる力を引き出し、合格者増を目指していきます。「漢字力」「文章力」の向上にも継続して取り組んでいきます。皆さん、是非、挑戦してください！ ラーニングセンター willにきてください！



同窓会いずみ主催

「伊藤忠彦特任教授退任記念最終講義」を開催しました

2017年2月25日(土)同窓会いずみ主催「伊藤忠彦特任教授退任記念最終講義」を開催し、卒業生・教職員、合計132名が参加しました。

最終講義は礼拝形式で執り行われ、ハンドベルクワイア・聖歌隊OG・OBによる讃美が捧げられました。伊藤特任教授の講義では、ご自身の幼少期における実体験や、本学で指導にあたられる中で見出された絵本の魅力など、ゴールドコット賞の受賞作品を取り上げながら、まさに「絵本の力」という題に相応しい内容を語っていただきました。

伊藤特任教授から、1938年～2016年のゴールドコット賞の絵本127冊の展示もありました。

最終講義後は、退任セレモニーとして伊藤特任教授より改めてご挨拶をいただき、記念品贈呈・全体での記念撮影の後、参加者全員で「シャローム」を合唱する中、伊藤特任教授をお見送りしました。卒業以来初めて帰ってきていただいた卒業生からは、「とても盛大で素敵な退任式でした。」との声が寄せられ、伊藤先生のお人柄を感じる温かな雰囲気のもと研修会を終えました。



三十七年に及ぶ、和泉短期大学の務めを終えることが出来たことを、主なる神に、また和泉

の教職員の皆様のお支えあつてのことと感謝し、心よりお礼を申し上げます。

この度は退任にあたり、同窓会いずみ主催の退任講演を、同窓に連なる方々の聖歌隊、並びに、ハンドベルクワイアが加わった礼拝形式で行っていただけたことは何よりの喜びであり、慰めでした。

このような者のために、お集まりくださった皆様、この紙面をおかりして深くお礼申し上げます。

退任講演の題は「ゴールドコット賞について」でしたが、このアメリカで、前年に発行された絵本から児童図書館協会



の選考で毎年金賞一冊に選ばれる絵本についての内容には触れず、簡単な紹介にさせていただきました。「絵本の力」と言う題での講演となりました。この変更は何よりも私の準備不足によるもので、お詫び申し上げます。

十九世紀イギリスで活躍し、その生涯を一八八九年アメリカで終えた画家であり、また優れた絵本画家でもあったランドルフ・ゴールドコットの名を冠した絵本賞は、一九三八年、メダル第一号の「聖書の動物たち」に始まり、二〇一六年まで、各年一冊、七十八年七十八冊が、変わることもなく受賞されてきました。

幸いに、これまでに受賞されたこれらの絵本七十八冊が、私の手元にあり、この日、講演会会場に(チャペル後方)に、受賞絵本の日本語訳絵本四十二冊を添えて展示し、講演会後、短い時間でしたが、関心のある方にご覧いただけただけことは何

よりでした。

これは、たつての希望でもありませんが、このささやかな私的コレクションを、この最初の展示を機会に、和泉短期大学の図書館に寄贈させていただくことができました。

和泉短期大学は、このことで四月十二日に「ゴールドコット受賞作品文庫」を図書館に開設していただきました。

五十年前、絵本に惹かれ、研究らしきことをはじめた時期、私はまとまったゴールドコット受賞作品を見たいと、地域や近隣の大学図書館に伺ってみました。「国会図書館に行けばあるかもしれない」といった状況でした。

この、ささやかな文庫が、和泉で学ぶ学生の学び、楽しく、豊かな学生生活の一助となればと願っています。



退任あいさつ

退任記念講演ならびにゴールドコット賞のご紹介に添えて

特任教授 伊藤 忠彦

2016年度「創立60周年記念事業募金」報告

多くの皆様にご賛同いただき、心から感謝申し上げます。

創立記念募金につきましては、創立60周年記念事業として創立記念フラッグ(大型・外灯取付型)、和泉短期大学ペナント、学修環境整備として教卓(12教室)、ラーニングセンター will ドア改修の総額7,536,348円に充当させて頂きました。ここに2016年度の募金報告を致します。ご協力に感謝申し上げます。



●募金対象事業

- 1) 創立60周年記念事業 2) 学修環境整備
3) 1号館外壁・鉄部塗装工事 4) その他、関連個所整備

●募金目標金額

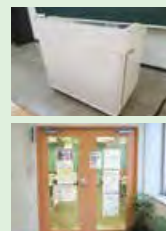
1億円

●ご寄付者数

2016年5月 ~ 2017年3月(124件)

●寄付金総額

4,003,000円



寄付者一覧(敬称略) < 2017年2月1日~3月31日 >

【特別寄付金】 国際ソロプチミスト相模 会長 岩本 一枝 / 鈴木 宏子 以上2件 70,000円

2017年度「教育環境充実資金募金」のお願い

学校法人和泉短期大学は1956年に東京都世田谷区中町でバット博士記念養成所を開設し、同年5月現任訓練講習会が開催されたことに始まります。2017年5月で創立61年を迎えました。教育の充実を図り、学修環境整備、施設維持整備を目的に、2017年度も「教育環境充実資金募金」を行うことになりました。皆様には出費多難の折と存じますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

●募金対象事業

1. 震災・災害対策(建物非構造物(天井)改修工事)
2. 災害対策用井戸設置(いこいの広場に設置)
3. その他教室環境改善費他

●募金目標金額 10,000,000円

●募金募集期間 2016年7月~2017年3月

●募金金額 1. 個人 1口 5,000円

2. 法人 1口 10,000円

●所得税・住民税の寄付控除

本法人への募金(寄付金)については、年間2,000円を超える金額に対して、確定申告をすることにより所得税及び住民税の寄付控除を受けることができます。

●法人募金の場合

法人からの募金(寄付金)につきましては、日本私立学校振興・共済事業団を通じて「授配者指定寄付金」として全額損金に算入することができます。詳しくは、下記あてにご連絡ください。

●募金問い合わせ先

学校法人和泉短期大学 経理・施設ユニット 042-754-1133



学校法人
和泉短期大学

私自身もたくさんの方に支えていただきながら過ごすことができましたことを感謝致します。
人と関わる職に就く学生のみならずのご活躍を楽しみと皆さまのご健勝を心からお祈り致します。

主 教 久保田美沙子
本学を卒業して現場保育士として勤め、その後、教員として和泉に再び来ることができた時の嬉しさを今でも思い出します。

主 教 久保田美沙子
主に通して4年間、学生のみなさんと関わらせていただきました。悩みながらも保育や教育を考える学生、また教職員の皆さんの温かい心遣いと学生を支えている雰囲気、和泉の魅力だと改めて感じました。



主 教 久保田美沙子



専任講師 山本 正司

卒業生と出会う機会も増えるでしょう。それを楽しみにしています。
6年間大変お世話になりました。

退任にあたり、皆さまに心より感謝いたします。旧・和泉福祉専門学校に採用されたのが、教員生活の始まりでした。そして和泉短大の専攻科に移り、学園には11年間お世話になりました。幸いにも、学生は保育や介護の現場などでの働きを志し、明るく元氣な熱いハートの持ち主との係わりを持つことで自分自身もよい学びの機会を与えられました。現在、わが国では介護や保育の人材不足が深刻な状況です。「愛と奉仕」という建学の精神をもって、これらの現場に貢献できる人材を育成し続ける和泉短期大学であることを心より祈念いたしております。



准教授 相馬 靖明

退任あいさつ

■ 訃 報

■ 故 服部 吉成氏 享年82歳 (キャリアデザインセンター住澤典子 御尊父 2017年4月11日)

主による平安をお祈りいたします。